



大奥の筆頭「年寄」

奥女中の筆頭である**年寄**（としより）は、広敷用人をはじめとする男性役人たちと協力して大奥を運営し、藩主側近の側用人や側向頭取、家老らと用談のうえ活動することもありました。また**表使**（おもてつかい）は、藩主や正室の使者として江戸城大奥へ登城し照会を行い、あるいは諸大名方へ出向いて情報伝達や交渉を行うこともありました（『福井藩史事典』『性差の日本史』国立歴史民俗博物館）。

幕末に年寄となった奥女中 9 名は、ほとんどが武士や儒学者・医師の出身で、三之間以上から召し抱えられ、キャリアを積みながら年寄までのぼっています。このうち、2 名は隠居後も定められた年額を下付される「**比丘尼**（びくに）」となり、なかには養子をとって士分として家を興す例もありました（ここでは、磯岡）。 * 大奥の諸手当については、机上の表を参照してください。

名前（勤務年）	宿元	身分	職務 1	職務 2
とり→ 牧野 (1807-1842)	上野国安中藩 本田才助娘	武士	—	中臈→中臈頭→若年寄→年寄格
利代→とせ→ 八十瀬 →重寿 (1817-1846)	上野国館林藩武頭役 田中四郎兵衛娘	武士	治好→（齊善）→慶永	表様三之間→若殿様三之間→表様右筆→表使助→右筆兼→右筆本役→表使助兼→表使介→表使→御錠口→若年寄→年寄 1847 年隠居
沢野→ 駒野 (1819-1837)	豊後国佐伯藩医師 知神甫仙妹	医師	齊承→謹姫	御三之間→御次→表使常助→御錠口介→御錠口（多山跡）→年寄
石野→小時→杉野→ 磯岡 [北村養寿] (1822-1854)	田安家普請組支配 小十人頭 北村貞（定）五郎妹	武士	治好→齊承→（齊善）→慶永	御次→若殿様附御守見習→表使助格→抱守手代り→表使格→御錠口格→若殿様逝去二付引払可相成処差留→殿様 [齊承] 附御錠口→若年寄→年寄→1854 年隠居 大奥女中削減で隠居、霊岸島中屋敷において御小屋被下、1870 年病死
八十瀬 (1852-1871)	駿河国田中藩 （儒学者） 芳野立蔵	武士	慶永	御三之間→呉服之間格→御次御雇→御次→祐筆→祐筆本役→御錠口介（年々5両）→御錠口→若年寄介→若年寄→年寄
ふさ→今井→ 室田 (1863-1871)	—	（不明）	勇姫	中臈→若年寄格→年寄→女中頭
たき→ 滝野 →らく (1859-1871)	兄 福井藩 小林与一郎 [100 石]	武士	勇姫	小姓格→中臈→側子供→若年寄→年寄格→側仕
染井 (—)	父 紀伊国和歌山藩 吉川六兵衛	武士	茂昭・幸姫	年寄
駒野 (—)	兄 福井藩 根来九郎人 [100 石]	武士	茂昭・幸姫	年寄格